

2022-23年度
国際ロータリー第2530地区 県北第一分区

InterCity Meeting

報告書

第一部

基調講演「道の駅を拠点とした地域活性化」
(東日本大震災後の取り組み)

第二部

「クラブの活性化」について、グループ討論会



IMAGINE
ROTARY

2022-23 Presidential Theme

と き 2023年2月25日(土) 13:30～
ところ 二本松御苑
ホスト 二本松あだたらロータリークラブ

プログラム

式次第

13:30～ 開場

		司会	松坂 豪智
14:00	開会点鐘 国歌斉唱「君が代」 ロータリーソング「奉仕の理想」 ソングリーダー 開会挨拶 ガバナー挨拶 ガバナー補佐挨拶 歓迎の言葉 来賓・参加クラブ紹介	RI第2530地区ガバナー 実行委員長 RI第2530地区ガバナー 県北第一分区ガバナー補佐 ホストクラブ会長 県北第一分区ガバナー補佐	佐藤 正道 根本 和志 齋藤 敏夫 佐藤 正道 箭内 一典 藤井 利則 箭内 一典
第一部			
14:30 (40分)	基調講演 講師紹介 基調講演「道の駅を拠点とした地域活性化」 (東日本大震災後の取り組み) 記念品贈呈	実行委員長 実行委員長	齋藤 敏夫 武藤 正敏 様 齋藤 敏夫
休 憩			
第二部			
15:30 (20分)	「クラブの活性化」について、グループ討論会		
15:50	発 表 (各クラブ7分)		
16:40	講 評 講 評 講 評 講 評 (各3分程度でお願いします)	RI第2530地区ガバナー パストガバナー パストガバナー パストガバナー	佐藤 正道 大橋 廣治 平井 義郎 芳賀 裕
17:00	次年度ホストクラブ発表 次年度ホストクラブ会長挨拶 閉会挨拶	次年度ガバナー補佐予定者 二本松RC会長エレクト 副実行委員長	安部 敏弘 内藤哲太郎 阿部 佳文
17:05	閉会点鐘	RI第2530地区ガバナー	佐藤 正道

目 次

開会挨拶	実行委員長 齋藤 敏夫	1
歓迎のことば	ホストクラブ会長 藤井 利則	2
ガバナーあいさつ	ガバナー 佐藤 正道	3
ガバナー補佐挨拶	ガバナー補佐 筋内 一典	4
基調講演「道の駅を拠点とした地域活性化」	武藤 正敏	5
「クラブ活性化」についてグループ討論会		14
福島ロータリークラブ		15
二本松ロータリークラブ		16
福島南ロータリークラブ		17
福島西ロータリークラブ		18
福島中央ロータリークラブ		19
福島21ロータリークラブ		20
二本松あだたらロータリークラブ		21
講 評	佐藤 正道	22
講 評	大橋 廣治	22
講 評	平井 義郎	22
講 評	芳賀 裕	22
次年度 IM ホストクラブ発表	安部 敏弘	23
次年度 IM ホストクラブ挨拶	内藤哲太郎	24
出席者一覧		25
IM実行委員会組織表		26
ハイライト		27

開会のご挨拶

インターシティミーティング実行委員長

齋藤 敏夫

二本松あだたらRC



本日は、国際ロータリー第2530地区県北第一分区主催のIMの開催に当たり、佐藤正道ガバナーの出席を頂き、多くのロータリアンそして大橋廣治、平井義郎、芳賀 裕各バストガバナー、右近八郎ガバナーエレクトのご臨席の元に行われたことに深く感謝いたします。

今回のIMは「活性化」についての、基調講演とグループ討論会の二部構成似て開催いたします。第一部は、二本松市旧東和町での東日本大震災からの目覚ましい復興と活性化についてのご講演を頂きます。第二部では、各クラブでのクラブ活性化についてのご討論を踏まえ、各テーブルでのご意見等の集約をお願いし、各テーブルごとに発表して頂きます。

今後の各クラブの運営、そして一人一人のロータリアンの皆様が未来に向けての指針になる大会になれば幸いです。

本日は、限られた時間ではありますが、どうぞ宜しくお願いいたします。

歓迎のことば

ホストクラブ 会長

藤井 利則

二本松あだたらRC



本日は、国際ロータリー第 2530 地区 県北第一分区のインターシティ・ミーティング開催にあたり、佐藤正道ガバナー様はじめ、パストガバナーの方々及び県北第一分区 7 クラブの多くの会員に、参加頂きホストクラブを代表して御礼申し上げます。

今回のインターシティ・ミーティング開催に当たり、福島県内は大分コロナウイルス感染症が減少しておりますが、引き続き感染予防対策を図りながら進めて参ります。

本日は、第一部に基調講演と第二部に「クラブの活性化」について、グループ討論会の 2 本立てで行いますのでよろしくお願い致します。本日のインターシティ・ミーティングに関しては、箭内ガバナー補佐をはじめホストクラブ実行委員会の皆様に感謝申し上げます。

また、本日の開催準備を進めて参りましたが、不手際があった際には、ロータリーの友情に免じてご容赦頂ければ幸いです。

本日のインターシティ・ミーティングが素晴らしい大会となります事を、心からご祈願申し上げます。ホストクラブからの「歓迎の挨拶」と致します。

本日は誠にありがとうございました。

ガバナー挨拶

国際ロータリー第2530地区
ガバナー

佐藤 正道
喜多方RC



これまでの3年間、私たちはコロナ禍により未曾有の災難に見舞われました。ロータリー活動も例外ではなく、行動制限や感染防止のため例会や事業を中止されたクラブも多いのではないのでしょうか。また、対面での会合を忌避され、オンラインによる例会等を開催するも、対応できない会員にとっては参加意欲をそがれ、デジタル・デバイドが情報弱者を生み出すこととなりました。その影響により、会員同士のコミュニケーションが失われ、ロータリーへの熱い情熱も失いかけているようにも思います。さらに、この災禍の中に入会されてきた新会員の皆さんへ、ロータリーの真の魅力を正しく伝えていけているのだろうかという疑問に思うところです。そのような状況下で、コロナ感染症に対する方針が緩和されることを国が示したこともあり、

私たちは前を向いて行動しなければいけないと意を強く感じた次第です。今後活力あるクラブを取り戻すためのきっかけとなるべく今回のIMのテーマにクラブの活性化を設定した次第です。この機会を通してそれぞれのクラブがさらなる活力を見出せることを祈念いたします。

県北第一分区IM挨拶

RI2530地区県北第一分区
ガバナー補佐

箭内 一典
福島中央RC



本日は、県北第一分区のインターシティミーティングに多数の皆様にご参加を頂き、有り難うございます。また、武藤正敏様にはご多忙の中、本日の講演をお引き受け下さり、ありがとうございました。武藤様には、「道の駅を拠点とした地域活性化」というテーマで、二本松東和の里山地域活性化のお話をして頂けると思います。宜しくお願いします。

さて、今年度のIMは佐藤正道ガバナーより「活性化」をテーマとする事を、各分区に申し渡されました。いかなる組織も時間の経過と共に、硬直化します。ロータリークラブも、例外ではありません。会員の維持と、新会員の勧誘を図り、クラブを更に発展させて行くためには、クラブ自体を魅力ある生き生きとしたクラブへと、絶えず変えて行く努力が必要です。

ジェニファー・ジョーンズ RI 会長は「ロータリーでの参加型の奉仕、人間的成長、リーダーシップ開発、生涯にわたる友情こそが、目的意識と熱意を生み出します」と述べています。私も、これがクラブ活性化のキーポイントではないかと思っています。

本日のディスカッションでは、皆様の活性化に対する考え、クラブの実例をぜひお話してください。

また、プログラムの最後には、本日まで出席のPastガバナーの皆様のご講評とはなっておりますが、クラブ活性化への提言や、日頃のロータリー活動へのご助言を一言頂ければ幸いと存じます。

本日のIMのホストクラブとして、コロナがまだ終息しない中、万全の対策で開催の準備してくださった、二本松あだたらロータリークラブの皆様に感謝申し上げます。

本日の会合が、県北第一分区のロータリアンの皆様にとりまして、有意義な会合となりますように、またロータリーの、新しい時代に向けた、更なる成長の機会となる事を期待しております。どうぞよろしく願い申し上げます。

基調講演

道の駅を拠点とした地域活性化 (東日本大震災後の取り組み)

講師 武藤正敏様

◇プロフィール

S26.2.19生まれ

昭和45年～平成23年4月

旧東和町役場職員、二本松市職員 42年勤務

2011年(平成23年)6月～2020年(令和元年6月)9年間

NPO法人 ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会 専務兼事務局長

2020年7月～2021年6月 相談役

2013年3月 農家民宿「田ん坊」開業



NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会の元専務兼事務局長から組織構成や活動内容について講演があった。

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により、福島原発の爆発事故が起き、直後の里山の放射能の影響調査や混乱した当時の暮らしの立て直しのために活動したことなどを中心に講演された。里山の汚染調査については、各種の補助金を活用して各大学や企業等の協力を受け、川上から川下までのあらゆるものの調査に取り組んだこと。その結果を類似する中山間地域に還元するため各種報告会を開催したこと。

農家の再生産支援のため賠償請求相談会を開設したこと。人々の健康を守るためにホールボデーカウンターの測定を継続していること。などについて話された。

また、少子高齢化対策と集落活性化のため、空き家や耕作放棄地を活用し、新たに就農したい希望者の移住受け入れを進め、若者を東和地区に迎え入れていること。その若者たちが地域で頑張っていることについて話された。

さらに、食育の重要性に鑑みて、生きる力、ひとを思いやる心、自然を慈しむ心を養うとともに、土の健康、人の健康、地球の健康などSDGSの推進と高齢者のいきがいや中山間地域の活性化を図るため、道の駅「ふくしま 東和」を拠点に多様な交流や教育旅行に取り組んでいるとのこと。

そして、里山の経済活性化のため県内外に多様な販売促進に努めていることや地域の魅力ある資源を宝に磨き上げるため、桑加工やアイスクリームなど農産物の六次産業化に挑戦していることなど独自の取り組みについて講演された。

終わりに臨み、人口が減少し、空き家が増え、農地が荒廃化していく中山間地域の課題解に向き合いながら元気な地域づくりのため、今後も道の駅を核にして活動を展開し、移住者も含め地域の若者に活動をバトンタッチしていくことが必要と。との抱負を述べられた。

国際ロータリー第2530地区
県北第一分区インターシティミーティング

ロータリアンの皆様

日時 令和5年2月25日(土)

場所 御苑

演題 『道の駅を拠点とした地域活性化』

東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)後の取り組み

講師

NPO 法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会

元専務理事兼事務局長 武藤 正敏

本日はお招きを頂きありがとうございます。

二本松市内の東和地区にある小さな組織の活動状況について報告させていただきます。

特に2011年3月に発生した地震で、福島第一原子力発電所の爆発事故が起き、放射能による中山間地域の里山にも大きな影響を受けました。

風評被害により低迷する里山の経済や暮らす人々の元気を取り戻すために、地域の実態調査等と新たな交流、6次化産業、移住対策について重点的に取り組みました。

その一端を述べさせていただきます。

本日はよろしく願いいたします。

1. ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会のあらましについて

(1) 名前の由来

有機農法での安全安心な野菜作り

地域づくりのため目標と課題・問題に対して**勇気**を持って取り組む。

地域の人々、消費者等都会の人々たちとの**ゆうき**的なお付き合い。

(2) ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会の活動

■目的

この法人は、阿武隈山系東和地域の自然豊かな里山の恵み、歴史と文化・景観を保全し、地域資源循環のふるさとづくりを推進し、顔と心の見える交流を通じて、誇りと生きがいを持って、住民福祉と健康増進をはかり、住民主体の地域活性化を目的としています。

■事業内容

- 1 特産品加工推進事業(桑・イチジク・リンゴなど加工品)
- 2 展示販売事業(道の駅ふくしま東和)
- 3 店舗出店事業(市街地大型店・東京各区民祭りなど)
- 4 食材産直事業(学校給食・宿泊施設)
- 5 堆肥センター・営農支援事業(ゆうき産直・東和げんき野菜)
- 6 交流定住促進事業(福島県ふるさと暮らし案内人ほか)
- 7 生きがい文化事業(民話茶屋、しめ飾り、竹細工、陶芸など)
- 8 健康づくり事業(健康講演会・健康相談会ほか)
- 9 災害復興プログラムの推進



■里山の恵みと人の輝くふるさとづくり

「田畑が荒れれば心も荒れる」と言われます。私達は未来の子供たちにふるさとの原風景を伝えて人と人、人と自然の触れ合う輝くふるさとづくりをすすめています。

有機農業による土づくり、有機的な人との関係をつくり、勇気をもって挑戦するのが「ゆうきの里東和」の目指す姿です。

次の、3つの再生に取り組んでいます。

◆地域コミュニティの再生

道の駅を拠点として先人の技と知恵を活かし、高齢者もいきいきと元気な地域を再生しています。新規就農した若い世代も参入し、人と人による活性化が進んでいます。協議会では福島県ふるさと暮らし案内人窓口、また福島県あぶくま住みたいネットなどを通じて定住二地域居住のわかりやすいガイド役を担っています。

- ・東和への誘い
(定住二地域居住者相談窓口・地域の後継者)
- ・GT推進協議会との連携・グリーンツーリズムの展開
(既存の観光文化連携・農家民泊・都市との交流)
- ・高齢者の生きがいづくり
(健康講演会・口腔衛生・健康器具)

◆農地の再生

土づくり+地産地消地元産のげんき堆肥を中心とした真面目な土づくり、耕作放棄された里山をひとつずつ再生し新規就農する人々も交え野菜、桑、エゴマ、麦畑などに甦らせています。地元で採れたものを主に食べる里山の生活を見直しています。

- ・付加価値のある農産物(少量多品目)
(げんき1号堆肥で作るげんき野菜ブランド)
- ・高付加価値の加工品
(農産物加工・販売支援・桑製品・商工連携)
- ・新規就農者の支援

◆山林の再生

田畑に流れる水は山林が荒れると枯れてしまいます。山の整備は大変重要です。子孫に伝えられる様、間伐材の薪・炭、落葉の堆肥など山の恵みを活用します。平成21年、長年の取り組みに対し、大きな賞を2ついただきました

- ・森林の再生
(落ち葉堆肥・里山バイオマス・森林体験)

2. 各分野における取り組みの紹介(概況)

(1)道の駅ふくしま東和の運営

平成12年度に中山間総合整備事業で建設した農村活性化センターを平成16年8月に国土交通省から県内11番目の道の駅として認証を受けました。

平成17年12月の市町村合併を機に、道の駅ふくしま東和(東和活性化センター)を特定非営利活動法人ゆうきの里東和が指定管理を受けて管理しています。

道の駅ふくしま東和では、農産物の直売所、手づくりのアイス販売所「ナチュレ」、食堂「みちくさ亭」などのほかに、加工施設等も整備されており、直営による加工品づくりも行っています。

また、会議室や調理実習室、体験加工室も併設されており、体験や研修・視察等の受け入れをしています。



(2)元気野菜の生産

化学肥料を半分に抑え、農薬も基準の使用量の半分以下にするなど、環境に配慮する独自の生産基準を設定した元気野菜の生産に取り組んでいます。

6つの約束を達成した農産物にだけ「元気シール」が貼れるシステムをとっています。

(3) 放射能調査等取り組み

1) 災害復興プログラムの推進

三井物産環境基金、東京農工大、新潟大、茨城大、横浜国立大、福島大など、各大学や企業等の協力により多様な放射能の影響を調査していただきました。

協議会の理事や会員のほ場を実証圃として提供し、水稲や野菜等の調査を行いました。特に、山林、水、畑、桑、タケノコ、大豆などの農産物やハセ掛けの影響、落葉の影響、農産物への移行、水生生物、動植物などについて、調査していただきました。



2) 農産物測定

三井物産環境基金や企業等(プレマ、カタログハウス)の支援を受けて、H23年8月から測定を開始して、平成23年度は1,512件、24年度は2,641件で、平成25年度の4月から1月までに、2,103件、測定しました。総測定件数は6,256件となりました。

平成23年度と比較して、24年度、25年度以降は検出限界値を超える作物はほとんどありませんでした。検出限界値以下の農作物が多い中、山菜や乾物野菜等に基準値を超えるものが時折散見されることもありました。



現在も測定を続けており、2022年末で11,000検体を超えています。農産物の測定をしっかりと継続的していくことが重要と考えていて、経費的な負担や農家の精神的負担が伴いますが、安全性の確認のためには不可欠なものとして認識しています。測ることが当たり前となっていることに情けなさを感じます。

3) 風評被害賠償請求支援(農家支援)

原発事故後の農産物価格への影響は風評被害という形で大きなものがありました。

農業の持続と再生産費を確保し生産者を支援するため、東京電力の担当者との個別相談会を設定しています。精神的支援にもつながっているものと確信しており、今後も引き続き支援していくこととしていますが、賠償となるケースは稀となってきています。

4) 他店舗販売強化

福島原発事故以降は風評被害による買え控えなどもあり、「フクシマ」の実態や農産物の測定などについて情報提供を行うこととしました。

そのため、都市との交流促進の一環もかねて、都市の区民祭りなど多様なイベントに参加し、農産物の安全性や販売強化につとめています。

福島市内等の大型スーパーへも、販売促進について支援をいただけてきました。



5) 各種の調査等

山林の再生、農地の再生、野生の実態調査、環境調査等のため、各大学や企業の協力支援をいただきました。

川上から川下までの中山間地域の営農、暮らしを継続するための安全性の担保を得るために多様な調査に取り組みました。

国や県、市の行政からの交付金や補助金、企業等からの助成金があったからこそ実現できたものとあらためて感謝いたします。

山菜の摂取制限が続くとのことから、ワラビの栽培にも取り組みました。

6) 会員の健康づくり(ホールボディカウンター)

ヒトへの影響を調査するため、当初農家の会員のうち3分の1ほどの約50名について4回の検査を行いました。

総体的には当初の測定値より、下がっている傾向にあります。稀に前回は上回る人もいましたが、放射能物質が高い食物を摂取したという、明確な原因がわかる人もいました。食べ物からの内部被曝が大きな要因といわれることから、測ったものを食べる、測って食べることが体内に放射能物質を取り入れない対策の一つと考えています。

2021年に12回の測定回数となりました。

7) 情報発信等(視察受け入れ、取材対応)

実態を知りたい、支援したいとの方々がゆうきの里東和を訪れました。各種調査の結果や活動内容などの情報発信を行いました。視察の多い年は、年間50件、1500名余の視察者がありました。

大学や企業団体、議員、外国からの視察もありました。

フクシマの本当のすがたの発信に努めました。

(4) 多様な交流の取り組み

1) 多様な交流の展開を目指して

地域資源を活用した交流の展開は、地域を元気にしてくれます。かかる人々の心の感動は何物にも代えが絶え喜びとなっているようです。

地域間交流や都市との交流はもちろんのこと、物流や情報交流は里山に活気と人々を輝かしてくれます。

国際交流・異文化交流や都市交流はさらに増えるものと期待しています。

多様な機会をとらえて、交流の拡大を図っていきます。

2) 農家民宿の開業支援

原発事故以来、福島県への観光客や交流人口は大幅に減少しました。

震災以前より、国体のカヌーや東和ロードレース大会等による農泊の推進を行ってきましたが、農家民宿の許可を得ての開業までには至っていない状態でした。

特に震災後は前述した通り、放射能という大きな環境問題があり、交流や滞在観光等は見込めないこととなる状況も発生しました。

しかし、多くの大学等の調査や研究のために、東和地域で宿泊を希望したいとの声が高まりました。



現状を認識しつつ、環境問題があっても今できることから始めることも必要なのではとのことや、将来、中山間地域がもつ資源を活用した滞在型の癒しの場づくりなどを目指して行くべきとの考え方から、東和地域グリーンツーリズム推進協議会が主体となり、協力者を募り平成平成23年度に5軒、平成24年度に5軒、平成25年度に4軒の合計14軒が民宿を開業することができました。

その後少しずつ増えて2019年には24軒となりました。

宿泊者は2022年末で10,764名となり、里山の経済活性化の一助なったものと考えています。

現在も滞在型交流の推進や地域資源の活用のため農家民宿の開業支援を行っています。行政からの財政支数援を受けて、モニタツアーやインバウンドに対応するためのスキルアップ研修などにも取り組んでいます。

今後は、農育や食育のため教育旅行の受け入れを視野に入れ、農業体験、郷土料理、農家の暮らし、農村文化などは勿論、東和地域にこだわることなく、二本松市、福島県の四季折々の観光なども融合させた、東和流のスタンスによる交流事業の展開を図り、滞在型のグリーンツーリズムを目指していきます。

更に、東和地域にゆかりの深い日本酒、焼酎、地ビール、ワインなどのアルコール類を楽しむ、大人向けのアルコールツーリズムなどを提唱していきます。



3) 地域資源(ワイナリー)等

酒飲み仲間の集まりの酒間のなかから発想した、ワイン造りの夢が実現しました。

阿武隈山系は有数の養蚕地帯でありましたが、輸入の増大や需要の低迷から斜陽化し、平成の一桁台で養蚕農家の大方が姿を消してしまいました。遊休桑園の活用や東和地域の特産品を作りたい、自分たちの作ったワインを飲みたいという一心で「ふくしま農家の夢ワイン株式会社」を立ち上げました。

平成24年2月に東和ワイン特区を申請。平成24年3月に認定され、平成25年7月にリンゴのシードルが誕生しました。有志者8名でスタートさせた夢物語は現実のものとなり、各方面より関心が寄せられています。

新規雇用の促進、遊休施設の活用、遊休地解消、地域資源の循環に果たす役割が期待されています。

そのほか地域内には多様な資源があるので、交流等に活用していきます。



(5) 教育旅行の推進

生きる力、自然を慈しむ心、相手を思いやる心を養う
 動物は獲物を捕ること、危険なこと、いいパートナーを得ることを学ぶ。
 アレルギーをもった子供が増えている。
 食糧問題、環境問題、SDGS への理解
 農業体験や民宿で農家の文化や食の大切さを学ぶ



(6) 六次化産業化の推進

目的

里山の活性化・付加価値
地域資源の活用
移住希望者の支援
無いものねだりはしない。
思いを形にする。
あるもの生かす、地域連携。
地域の財布を肥やす



(5) 新規就農者の受け入れ(移住者支援)

市町村合併以前から二本松市東和地域では、新たに東和の地で農業を営んでみたいという人達を受け入れし、多様な支援をしています。

指定管理後には「特定非営利活動法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会」がこの分野に積極的にかかわり、新・農業人フェアへの参加等により情報発信に努めています。

震災直後も新規就農や定住希望者がおられ、平成23年度には6~7人が東和地区で就農や定住をしたいと希望され受け入れしました。ここ数年も東和に移り住みたい希望者がおり、モニタツアーの開催や新規就農者研修事業の採択申請、空き家の提供、農地流動化、営農指導等の支援策を講じているところです。

新規就農等で定住した方々のノウハウや人脈は地域に活力を見出してくれることが多いことから、引き続き交流や情報交換を行いつつ、相互の英知を結集した地域づくりを模索していきます。耕作放棄地や集落の機能強化にもつながり、中山間地域の活性化対策の一つと考えています。

目的

農地の再生
山林の再生
コミュニティの再生
空き家活用
集落機能の維持・灯を消さない
就農・移住希望者支援
Uijターンの支援



「クラブの活性化」について
グループ討論会

福島ロータリークラブ 中川 宏生



福島ロータリークラブ 中川宏生

■当日のディスカッションより

Bテーブルでは限られた時間でしたが、クラブの活性化について多くの意見が出されました。その中でも「クラブを活性化させるには新しい風を吹かせること」という意見に象徴されるように、変化が必要であるという点については皆さまの考えが共通していました。

皆様から出された意見をいくつかご紹介します。

- ・奉仕という共通の目的があってもベテラン会員と新会員ではロータリーに対する理解・考え方に差があり、このギャップを相互理解という形で解消する事が重要
- ・夜間例会を毎月実施することで昼の例会に出席しにくい会員に配慮している（退会がゼロに）
- ・奉仕活動は必然的に会員同士のコミュニケーションが増えるため親睦や相互理解の場としても有効
- ・共通の趣味などによる同好会は親睦の場として効果的
- ・若い会員をサポートしリーダーとして育てることが重要
- ・新会員の考えを受けとめる一方、ロータリーの良き伝統などはしっかりと伝える
- ・例会において会員の相互理解にも繋がるニコニコBOXに積極的に取り組んでいる

■我がクラブの活性化策

当クラブの活性化策として、例会での取り組みを軸にご紹介します。

当クラブでは今年度重点目標として「会員の帰属価値を最大化する」ことが相良会長より提示されています。会員であることに喜びを感じる事が「帰属価値」であり、これを高めるためには例会や奉仕活動などあらゆる活動を親睦の機会として捉えるべきと示されています。

これを受け今年度の例会ではいくつか新たな取り組みも実施しております。

1つ目はクラブ委員会の枠組みを重視した取り組みです。

月に1度はクラブ委員会毎の席次としているほか、クラブの各委員会が主体となりプログラムを企画・実施する「委員会担当例会」を開催しています。基本的にロータリー特別月間と関連のある委員会が担当となります。これらのことで委員会を意識した活動が増え、特に新会員にとっては所属する委員会を介してクラブとの接点が強くなっていると考えます。

2つ目は会員スピーチの充実です。

例会参加意識の向上を図る取り組みの一環としていてクラブ会員によるスピーチの充実を図っています。

ベテラン会員のスピーチはクラブにおける取り組みの意義や歴史的な背景を理解する機会となっています。また、多様で専門性の高い会員のスピーチが聞けるのはロータリーならではの魅力となっています。

3つ目は会員増強につながる取り組みです。

今年度は初めてのオープン例会を開催しました。OB会員による講演をプログラムのメインとしました。入会候補者を中心とするゲストに出席いただき、入会に繋がっています。

二本松ロータリークラブ 渡辺 聡



二本松ロータリークラブ 渡辺 聡

■我がクラブの活性化策

二本松ロータリークラブは1961年に創設され、初代会長の太田七右衛門先輩が創立総会で“酒樽も丸い、ロータリーも丸い、たるのように丸く、和をもってやりましょう”とおっしゃいました。二本松ロータリークラブはその思いを現在まで継承し、和を重んじ、仲間意識が強くチームワークや連携に長けているクラブだと思います。

例えば、定例会を月1回は夜間に行い、コロナ禍などの特殊な状況を除けば、親睦会を必ず行うようにし、会員同士の親睦を深め出席率の増加や活性化に繋げています。

また、パスト会長などの経験者が、翌年以降、平会員などを経歴にこだわらず引き受けていただき、威張ったりせず、どんな仕事でも積極的に行うなどの気質があるクラブです。

会長経験者が平会員になったとしても、テント貼りなど事業の準備や雑用を、文句も言わず当たり前のように引き受けていただいております。機会を若手に提供する風潮があり、あたたかく新人を見守りながら、一本筋が通っていれば新しい事業であってもチャレンジという意味で冒険的な事業であってもやることを後押ししていただいております。もちろんいざというときは方向性を修正していただきます。そのため、クラブ全体に、こだわりすぎず、どんどん新しいことに挑戦する雰囲気があり、運動の活性化

の一助となっているのではないかと考えます。

最近はや若いメンバーが増えてきており、年齢層がバランスよくとれるようになりました。経験のあるベテラン会員と若手会員が親睦をはかり、互いに情報交換や学びの場とするため、野球部会や釣り部会、ゴルフ部会でプライベートでも交流をしています。今後は仲の良さを生かしながら、楽しい雰囲気づくりを会員増強に努めていこうと考えます。

■活性化を図るために必要なロータリーの 中核的価値観

「親睦」

会員同士の親睦を深めることで、人と人との繋がりの力が生まれます。これがなくては、ロータリーの運動というのは個人のやる気のみで頼らざるを得ません。しかしここに会員同士の結びつきが生じることで、「あの人がやるなら、自分もやってみよう」という気持ちが起こり、出席率の増加も含めた運動の活性化につながると考えます。いい人間関係を構築することは重要です。また、会員の学びや成長という点においても、会員（人）は会員（人）から学ぶことで学びや成長をするのだと考えます。その点で会員同士の親睦というのは大切です。

「リーダーシップ」

グループで運動をするとき、そこにリーダーが現れます。リーダーシップは、クラブ全体であっても、委員会単位であっても生まれるものであり、誰もがリーダーにはなれるものです。リーダーは人を導き、出席率の増加、会を活性化できる存在です。リーダーの創出をクラブが目指すことは重要であると考えます。

「多様性」

会が活性化するためには、当たり前ですが会員を誰一人取り残さないように巻き込むことが必要です。クラブには多様な職種、多様な立場の会員がいます。会員に平等に機会を与え、運動に参加していただく義務がクラブにはあると考えます。

「奉仕」

積極的に会員に参加していただくためには、運動の目指す先にある奉仕とは何かを会員一人一人が知っていることが必要です。目的がぶれてしまうと、会としての運動もできなり、会員も適切な経験やメリットを受け取ることができなくなりますので、会員から会員へ、ロータリーの奉仕の精神を伝えていくことが必要になります。

「高潔性」

高潔さというのはロータリークラブの会員がロータリークラブの運動に参加することで得られる報酬であると考えます。クラブに参加することで会員は高潔な人財に成長することができます。また、同じ会員に高潔な人財に出会うことで、尊敬し、憧れ、自分もその人のようになりたいと思うことで、参加率が増したり、活発な運動が得られるようになると思います。そのため、会としても活性化のために高潔な人財を育てるように努めるべきだと考えます。

福島南ロータリークラブ 宍戸隆司



福島南ロータリークラブ 宍戸隆司

◆発表者

幹事 宍戸隆司

◆ディスカッションリーダー

副会長 林克重

◆内容

我がクラブの活性化策

(クラブの現状、今取り組んでいること、これからの取り組み)

現状：課題 例会のマンネリ化

会員の高齢化及び会員の減少

取り組み：例会の内容を魅力あるものとするため 試行している

- ・前年はコロナ禍の中でも魅力ある例会を目指し、外部スピーカーが難しいため会員スピーチを多

く取り入れ、会員相互間の親睦を進めた。

➡好評

- ・例会の内容を濃くするため例会を30分早め食事を別にして例会の時間をたっぷり取った。

➡時間が長すぎるとの意見が多数出た

- ・今年度は逆に感染予防を十分にし、外部スピーカーの依頼、移動例会、夜間例会を極力進めることとした。ただし、好評であった会員スピーチも継続した。

*外部スピーカー：月間に合わせた地区の各委員長、ロータリーの友の編集長他地区のバトガバナーなど

- ・オープン例会の実施：推薦者を一堂に集め、ロータリーの魅力発信をする

* 2回の実施を試み、延べ15名の招待➡現在1名の女性会員を得た

- ・初の試みである海外のクラブとのグローバル補助金への取り組み

これからの取り組み

- ・クラブ内クラブ(シニアクラブ)の創設(未来計画委員会)

(目的) 健康状態や退職者に対応しつつまでも出席できる受け皿を作る (年金生活)

後継者との引継ぎを円滑にする➡年齢層を下げる

*シニアクラブの会員資格基準を検討

- ・歴史と伝統の継承

クラブや奉仕活動等の成り立ちや意義を新会員に周知することが必要

これらは、単年度の取り組みでは達成できるものではありません。良きものは変化をさせて、次年度に引き継いで行く事が必要であると考えます。

活性化を図るために必要なロータリーの 中核的価値観

(親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップ)

親睦

私たちは、ロータリアンとして例会及び各種奉仕活動など出席をする義務と権利を持ち合わせています。参加をすることによってお互いを知り、同じ土俵の上で活動をすることによって喜びを分かち合い信頼いわゆる絆が出来るものと考えます。

(夜間例会、懇親会などはその一つの手段であり、お酒は潤滑油である。)

親睦は、クラブが活動をする上で必要不可欠であり、目標遂行の力となるもの。

高潔性

ロータリアンは、経営者や所長・支店長など社会的に健全で高い職業倫理感を持ち合わせていると思います。同様にクラブ内でも先輩・後輩関係なく、フラットな関係で公平さと尊敬の念を持ってお互い

切磋琢磨し、学びと成長をすることが必要です。

多様性

クラブは、あらゆる職業・職種の集団であり、地域社会で営んでいる企業の集まりです。

その特性(考え方)を受け入れ、多角的なアプローチで活動に生かすことが必要。

幅の広い年代層(老若男女)の意見を取り入れることも多様性の1つと考えます。

奉仕

ロータリーの基本となる奉仕は、その歴史と意義(目的)が会員に十分に伝わるのが大切であり、奉仕活動を通じて地域社会に貢献することが会員同士の一体感、達成感、喜びとなり、当たり前に浸透することでロータリー精神が根付いていくものと思います。

リーダーシップ

当然のことではありますが、ロータリーは企業のトップの集団であり、そのスキルが生かされるべきものだと思います。その能力が生かされるためにもクラブ活動に積極的に参加し、先輩諸氏の意見を聞きながら、若い会員の方が委員会のリーダーとなりクラブ運営にかかわって行く事が大切で、それがクラブの成長に繋がるものと思います。

福島西ロータリークラブ 高橋智弘



福島西ロータリークラブ 高橋智弘

■クラブの活性化について

福島西ロータリークラブの活性化策についてご報告させていただきます。

まず我がクラブの現状ですが、2年前にクラブ会員数が22名まで減少しました。昨年度、今年度と女性会員1名を含め3名の入会があり、現在は25名で活動しております。

今取り組んでいるのは、やはり会員増強であり、退会者を出さない事です。当クラブは、病気やご不幸による理由以外ではここ数年退会者を出していま

せん。また、ロータリーは奉仕団体であります、まずは楽しい場所であることが大事だと思います。会員同士の親睦を深める目的で、一般的なファイヤーサイドミーティング、ゴルフ部をはじめとして、旅行を楽しむまたたび会、後援会を通じての大相撲大波三兄弟の応援、そして我がクラブ一番の野球部での交流、様々な行事を行い、親睦を深めクラブの活性化を図っています。

これからの取り組みとしましては、各クラブとも同じではあると思いますが、会員増強、しかも女性会員を増やしていく取り組みをしていかなければなりません。親睦活動においても、やはり男性よりで女性が参加しづらい行事も多々あり、我がクラブでもひとり女性会員が増えましたので、その会員の皆さんの意見を尊重し、できることから取り組んでいく考えです。

クラブの活性化を図るために必要な価値観として、ロータリーはすべての人と尊厳と尊重をもって

接し、あらゆる人の声に耳が傾けられるようにすべきです。それを反映したのが、DEI(多様性、公平さ、インクルージョン)の行動規範です。他者を尊重する言葉を使う、サポートを示す、温かく向かい入れるインクルーシブな環境を助長する、多様性を重んじることが求められています。表現の自由は大切ですが、言動に重大な責任が伴ってきます。いろいろな隔たった考え方を容認しない共通の立場を取り、対処していくクラブを目指します。

クラブとしては、多様性、公平さ、インクルージョンについて対話することで、みんなが学び、互いに耳を傾け、尊重する姿勢を身につける機会になるようにする。こういった対話のリーダーには、会員歴の短い人など起用し、クラブに新しい考えを根付かせていくことを、推進していきたいと考えております。そして新しい考えが根付くことによって、クラブが活性化していければいいと考えます。以上、ご清聴ありがとうございました。

福島中央ロータリークラブ 亀岡 政雄



福島中央ロータリークラブ 亀岡政雄

当クラブでは、以前に会員満足度調査というアンケート調査を実施しました。ここで少しご紹介させていただきます。

アンケートの内容は

- ・本クラブの会員であることに満足をしているか
- ・本クラブの会員、例会、雰囲気について

- ・例会についてどう思っているか
- ・本クラブの奉仕プロジェクトについてどう思っているか
- ・コミュニケーションと対応について
- ・会員であることの価値について
- ・クラブの参加について
- ・それと会費についてです。

結果ですが

- ・本クラブの会員であることに満足しているは、82.4%でした。自分自身ではロータリークラブの会員であることのプライドや義務感についてはある程度満足できているものと考えられるのかと思います。

次に

- ・例会や雰囲気については、例会は時間を費やす価値があると思うが、76.5%

新会員とすぐに打ち解けられるように配慮しているが、55.9%

互いの思いやりを持っているが、88.2%

地元地域の職業や人口構成を反映しているは、26.5%

クラブは会員の関心やスキル及びスケジュールに応じて活動に呼びかけるように努力しているは65.5%

寄付及び募金活動の量は適切であるが、76.5%でした。地元地域の職業や人口構成を反映しているかが、26.5%

と非常に低い数字となっておりますが、これはこのまま受け止めるのではなく、職業的に平日の昼や月一の夜間例会でも参加が難しい事や、その業界の方々がロータリークラブについて、認識があまり無いという可能性も考えられると思われまますので、少ない業界の方々の特徴や毎日の事業のペースやスケジュールについて考え、それでも必要であればクラブに変化をもたらす必要があるのではと思います。新会員とすぐに打ち解けられるように配慮しているかについて、55.9%とやや低いですが、そう思っている方々がどの立場の方なのかまでは見えませんが、俯瞰して、自ら入りたいと思う会員を増やす方法、会員の退会を防止する方法、義務的ではなくて

楽しく活動に参加できる何らかの策が必要なのかと思います。

次に

・例会についてです。

国際ロータリーの最新情報の紹介については、非常に良い、良い、まあまあを合計すると、97.1% 例会の長さは同じく良いが、94.1%

交流に充てる時間は、良いが、79.4%

職業のネットワークづくりや主題の多様さ、例会の時間や場所、講演者とプログラムについてもおおむね良いとの回答となっております。例会についてはおおむね良い回答となっておりますが、一方で日時や会場、プログラムの内容については再度、更なる良い方に向けての前向きな検討も必要かと思いました。本日の討論会でも例会を楽しくするように考えているという意見がありました。また、オープン例会にて新会員を募っているというクラブもありました。

これらをおある一定の情報として、本日の会で得られたことと合わせて、今後のクラブ活性化に役立てていければと考えます。

以上、私からの発表とさせていただきます。

ありがとうございました。

福島21ロータリークラブ 伊藤 淳一



福島21ロータリークラブ 伊藤淳一

◆発表者・ディスカッションリーダー
伊藤 淳一（福島21RC 所属）

◆内容／我がクラブの活性化策

現会員数から純増を目指し会員増強を図る、特に年度終盤に退会者が増えることから退会防止策に取り組む必要がある。

年間を通じて、会員増強と退会防止の話は度々あるが、具体的な対応策が見受けられない。また会員の高齢化が進み、以前のような事業活動が行えないなど課題が多い。

現状とこれからを考え、委員会を中心にクラブ全体で、若い会員の勧誘と高齢な会員の退会防止に取り組む。同時に事業活動の見直しを図り、クラブの活性化へ繋げる取組みを行っています。

活性化を図るために必要なロータリーの中核的価値観

クラブの活性化に必要なのが親睦であり、退会防止や新会員の勧誘などに繋がる重要な取組みであると考えます。とくに会員のモチベーション向上に繋がり退会防止などに効果的だと思います。また新会員獲得へ向けて効果的な活動であります。

私たちはロータリアンであることを認識し、私た

ちが出来ること地域に必要なことを考え、地域の声に耳を傾けて活動できること。多様性のあるクラブ、地域のリーダーと言われるようなクラブを目指したらどうか。

私たちには奉仕活動を通じて貢献していく流れが必要です。クラブで価値観を共有し意識向上を行い、地域に必要なクラブとして存在意義があるのでしょうか。

二本松あだたらロータリークラブ 佐藤 壮一郎



二本松あだたらロータリークラブ 佐藤壮一郎

IM「クラブ活性化」発表

○会員増強

新会員の様々な意見を聞くことにより、クラブに活気が出る。

新会員へのフォローをスポンサー会員にだけ頼らず、会員全員でフォローする。

○地区・分区の各セミナーに参加

会長幹事だけの参加ではなく、クラブ委員会の委員を出席させる

○ロータリアンの質の向上

クラブ各委員会にロータリー賞のテーマを提示し挑戦する。

挑戦することにより、会員がロータリーについて勉強することになる。スキルアップ。

○クラブ委員会

委員会メンバーを立候補制にする。

得意又は興味のある分野であれば、やる気が違う!!

○例会への出席率を上げる

懇親を深めるためにも、夜間例会を増やす。

欠席がちの会員を夜間例会に誘う。

講 評

IR第2530地区ガバナー **佐藤 正道** (喜多方RC)

「クラブの活性化」についての発表ありがとうございました。

今現在、県北第一分区にはパストガバナーは4名おりますが、次年度は5名になります。とても素晴らしいことです。私は、各クラブ訪問してきましたが県北第一分区は、特に分区行事が多すぎることに驚きました。本日発表して頂きましたのが「魅力あるクラブ」言いながらクラブ例会数を減らしています。魅力あるクラブにしたいなら例会数を減らしてはいけない……

パストガバナー **大橋 廣治** (福島南RC)

本日のインターシティ・ミーティングは、二本松で開催に当たりパストガバナー講評は行わないで二本松の歴史についてお話させていただきます。

二本松市には二本松城（霞ヶ城）あり、この戦いで言われ無き賊軍の汚名を着せられた、二本松藩は、奥羽越列藩同盟に組みし西運に対して航戦の道を選んだのです。そしてこの戦いで二本松少年隊の悲話老人組の悲劇を残し、実に338名もの戦死者を数えて1868年二本松霞ヶ城は落城致しました。

パストガバナー **平井 義郎** (福島中央RC)

当クラブでは、以前に会員満足度調査と言うアンケート調査を実施した。アンケートの内容は、当クラブの会員であることに満足しているか・当クラブの例会・雰囲気についてどう思っているかのアンケート調査結果は80%であります。残り20%はロータリーはみんな一緒に手をつないで進んで行かなければならない。

パストガバナー **芳賀 裕** (福島中央RC)

私は、皆さんに我クラブの例会は当然出席を上げてもらいたい。

また、よそのクラブにメイクアップを進めたいと思います。メイクアップをする事で我クラブと違う新しい発見が生まれます。私は、東京ロータリークラブにメイクアップをして参りました。

例会場は東京帝国ホテルであります。その時は日本の一流企業の会員が3名が会員スピーチをされました。是非他のクラブにメイクアップをしてください。

次年度 IM ホストクラブ発表

次年度ガバナー補佐予定者

安部 敏弘

二本松あだたらRC



皆様、あらためましてこんにちは

只今、ご紹介頂きました次年度県北第一分区ガバナー補佐予定者の、あだたらロータリークラブ所属 安部敏弘と申します。

昨年の末より3回に渡る次年度ガバナー補佐研修会を先週土曜日に修了することが出来ましたことをこの場をお借りしましてご報告申し上げます。

次年度、県北第一分区のクラブ皆様と右近ガバナー年度のガバナー補佐としまして、浅学菲才の身ではありますが、皆様のお役に立てればと身の引き締まる思いであります。

どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、この3年間、コロナ禍でフェース・ツー・フェースのロータリー活動がままなりませんでした。しかし、ようやく今年の5月には、2類感染症から季節性インフルエンザ並みの5類感染症に移行されることとなります。

是非とも、来年のインターシティミーティングは、今年よりも更に多くのロータリアンが集い、懇親を深め合い、そして飲食を伴うインターシティミーティングを開催して頂きます様に、私からのリクエストとしまして、次年度ホストクラブの発表をしたいと思ひます。

次年度のインターシティミーティングのホストクラブは、内藤哲太郎会長エレクト率いる、二本松ロータリークラブ様にお願ひ申し上げます。

どうぞ、来年度よろしくお願ひ致します。

次年度 IM ホストクラブ会長挨拶

二本松ロータリークラブ
会長エレクト

内藤 哲太郎
二本松RC



次年度 IM ホストクラブを承ります二本松ロータリークラブ、会長エレクト内藤です。

次年度はホストクラブとしては、年度後半にかいさいしたいと思っております。

テーマとしては、ロータリーの事や、一般社会の問題や、社会環境への問題をテーマとして考えております。

先ほど、次年度ガバナー補佐予定者、安部敏弘さんも次年度は飲食を伴って IM を開催して参りたいと言っておられました。二本松ロータリークラブには、大七酒造がおられます。皆さんと飲食を伴って IM を開催し親睦を深めながら盛り上げていきたいと思っております。どうか、次年度の IM にはホストクラブとして多くのお越しをお待ちしております。

出席者一覧表 (敬称略)

- RID2530 ガバナー 佐藤 正道 (喜多方RC)
- RID2530 パストガバナー 大橋 廣治 (福島南RC) 平井 義郎 (福島中央RC)
 芳賀 裕 (福島中央RC)
- RID2530 県北第一分区ガバナー補佐 筋内 一典 (福島中央RC)
- 分区幹事 高橋 正見・佐藤 龍史 (福島中央RC)

基調講演「道の駅を拠点とした地域活性化」
 (東日本大震災後の取り組み) 武藤 正敏 様

クラブ名	会 長	幹 事	出 席 者 名			
福 島	相良 元章	吉田 大樹	右近 八郎	菅沼 裕	浦部 博	大槻美恵子
			加藤 義朋	鈴木 恭一	小林 仁一	白岩 康夫
			中川 宏生			
二 本 松	鈴木 一弘	佐藤 義晃	内藤哲太郎	渡辺 忍	三津間誠吉	安齋 淳
			浜崎 広志	菅野 京一	井上 航	安齋 秀雄
			鈴木 安一	鈴木 浩之	佐藤 克也	杉島 洪徳
			高宮 優子	前田 智美	渡辺 聡	野地トヨ子
福 島 南	渡邊 正義	穴戸 隆司	菅野 良二	林 克重	吉田 和義	河野 忠
			植松みち子	三浦 善治	鈴木 洋子	大野 順道
福 島 西	高梨 哲男	高橋 智弘	渡辺 敬藏	寺島 英樹	久米 允彦	齋藤 武二
福 島 中 央	佐藤 元彦	亀岡 政雄	鈴木 和夫	齋藤 康隆	阿部 洋子	梅津 寿光
			佐藤 和子	佐藤 信雄	西屋 明	山田 稔
			渡邊 英世			
福 島 21			伊藤 淳一	梅津 茂巳		
二本松あだたら	藤井 利則	橋本 哲弥	齋藤 敏夫	本多 勝也	大坪 清悟	安部 敏弘
			佐藤壮一郎	飯田美恵子	秋山 和久	阿部 佳文
			安齋 秀輝	大藤 務	菅野 守芳	穴戸 光英
			篠塚 文彦	菅野 秀夫	善方 邦雄	高橋 修二
			根本 和志	根本 和行	平塚興志一	松坂 豪智
			坂本 和広	金田 君子		

ホストクラブ役員及びIM実行委員会組織表

会 長	藤井 利則	ガバナー補佐	箭内 一典
会長エレクト	本多 勝也	ガバナー補佐幹事	佐藤 龍史
副 会 長	佐藤壮一郎	ガバナー補佐幹事	高橋 正見
幹 事	橋本 哲弥	実 行 委 員 長	齋藤 敏夫
副 幹 事	大坪 清悟	実 行 副 委 員 長	阿部 佳文
会 計	高橋 修二	幹 事	本多 勝也
S・A・A	阿部 佳文	会 計	篠塚 文彦
直 前 会 長	阿部 佳文		
事 務 局	佐藤 紗世		

委 員 会	委 員 長	副 委 員 長	委 員
総務委員会	佐藤壮一郎	橋本 哲弥	善方 邦雄 大坪 清悟
プログラム委員会 [進 行]	松坂 豪智	本多 勝也	渡辺 章 根本 和志
受付委員会	金田 君子	佐藤 百合	飯田美恵子 佐藤 紗世
接待委員会	根本 和行	菅野 守芳	菅野 勝子 鈴木 裕子
会場委員会 (設置・救護等)	平塚與志一	安部 敏弘	大藤 務 安斎 秀輝 坂本 和広 本田 祐樹
記録委員会 (写真撮影等)	穴戸 光英	秋山 和久	齋藤 敏夫 齋藤 勝美 太田 恭寿 近美 豪人
駐車場委員会	菅野 秀夫	渡辺 正弘	出川 正人 遠藤芳志彦
会計委員会	篠塚 文彦	高橋 修二	阿部 佳文
報告書作成委員会	藤井 利則	穴戸 光英	齋藤 敏夫 橋本 哲弥

ハイライト



Rotary

